

# プラント状況確認結果(平成25年3月5日～3月12日)

平成25年 3月 12日  
福島県原子力安全対策課

○ 平成25年3月5日～3月12日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、プラントの新たな異常はありませんでした。

また、敷地境界モニタリングポスト、発電所専用港内外の海水中の放射性セシウム濃度、敷地内の大気中の放射性セシウム濃度、タービン建屋付近のサブドレン水中の放射性セシウム濃度には、有意な変動は見られませんでした。

## (1) プラント状況 (3月12日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 <sup>※2</sup>
原子炉 <sup>※1</sup> (核燃料)	冷却	注水量 (m <sup>3</sup> /h)	4.4	5.5	5.4	—
		圧力容器 下部温度(°C)	17.7	31.7	30.5	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 <sup>※3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )(A系)	1.60×10 <sup>-3</sup>	検出限界未満	検出限界未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.10	0.03	0.17	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	14.0	14.3	11.3	23

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm<sup>3</sup>以下である。

## (2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果 (3月12日午前10時)

最小 2.6(MP-6)～最大 6.8(MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

※定期点検のため、MP-2は欠測。

## (3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果 (3月11日採取分)

最小 4.8(物揚場前)～最大 150(4号機スクリーン(シルフェンス内側)) Bq/ℓ

※測定した11地点中5地点において、周辺監視区域外の水中の濃度限度(告示濃度限度)90Bq/ℓを超えていますが、これまでの変動の範囲内となっています。告示濃度限度は中長期ロードマップにおける放射線量低減の達成目標であり、東京電力は3月末までに浄化装置による放射性セシウムの除去を開始するとしています。

## (4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果 (3月11日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 検出限界未満

1～4号機放水口から南側に1.3km: 検出限界未満 ※検出限界値は1.4 Bq/ℓ

## (5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果 (3月11日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約2×10<sup>-7</sup> Bq/cm<sup>3</sup>

## (6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果 (3月11日採取分)

最小 検出限界未満(4号機) ~ 最大 2.2(2号機) Bq/cm<sup>3</sup> ※検出限界値は0.02 Bq/cm<sup>3</sup>

【参考事項】

- ・ 3月11日 2号機原子炉建屋のブローアウトパネル脱落により生じた開口部(約6×4.3m)について、鋼鉄製パネルの設置による閉止工事が完了した。閉止パネルには、原子炉建屋排気設備(排風機、放射性物質除去フィルター、放射線モニター)が設置され、原子炉建屋からの放射性物質の大気放出が管理される。

※ブローアウトパネルは、平成23年3月12日の1号機の水素爆発の衝撃で脱落したとされている。

(問い合わせ 024-521-1917)